国際シンポジウム「市民の中のモーツァルト　～セレナードの世界～」

2006 年 12 月 6 日　聖徳大学 7301 教室にて

「アントレッター・セレナード」をめぐって

„Antretter-Serenade“

ルドルフ・アンガーミュラー　Rudolf Angermüller

Antretter von Antrettern

この名前は、オーバーバイエルン・ローゼンハイムの地域名に由来しています。その地はブランネンブルク地区にあり、名前の由来地は、アントレット地域にあることが書類から確かめられます。アルテンホーエナウ修道院（イン川沿いのヴァッサーブルクの上流にあるグリースシュテット）の土地台帳には、「家屋、引き網、パン焼き釜、浴室のあるアントレッターの農家」が 1574 年にすでに言及されています。

ヨハン・エルンスト **Johann Ernst** (*9. Jan. 1718 Grabenstätt/Bayern, † 15. Jan 1791 Sbg.) は商人で、彫刻家フランツ・ウルリッヒ・アントレッター Franz Ulrich A. とカタリーナ・ミック Katharina Migg (*5. Nov. 1717 [?] Grabenstätt) の息子です。彼は若くして、ザルツブルクの商人カスパール・ヴィルヘルムゼーダー Kaspar Wilhelmseder (ca. 1681–1755) のもとへやってきました。ヨハン・エルンスト・アントレッターは、当地のベネディクト派の大学で法学を修めました。彼は、1745 年 7 月 12 日に宮廷顧問官の試補 Akzessist beim Hofrat に採用され、1747 年 7 月 11 日には宮廷顧問官と宮廷裁判所の事務官 Hofrats- u. Hofgerichts-Sekretär として雇われました。1755 年には上級狩猟管理長試補 berstjägermeister-Assessor となり、その後［「試補」の取れた］宮廷顧問官 Hofrat 、地域代表団事務官 Religions-deputations-Sekretär 、秘密会議の書記 „Geheimer Conferenz-Aktuar“ となりました。

1756 年 12 月 1 日、彼はウィーンで帝国貴族に列せられ、„Antretter Edler von Antrettern“ の称号を得ました。1758 年、宮廷軍事会議とザルツブルク領邦議会のラントシャフツカンツラー（全階級の代表

者）事務総長 Landschaftskanzler Generalsekretär、1762 年にはザルツブルクのラントマン（長官）Landmann になりました。自宅を Jugendgasse 7 に構え、1765 年にはアイゲンに城を、また 1765 年 9 月 20 日には „Rehlingen Stadtpalais“（現在の Mozartplatz 4）を、さらに 1772 年には „Bräuhaus beym Goldenen Stern“（現在の Getreidegasse 34/36）を購入しました。1773 年の住民台帳 „Leut-beschreibung“ には次のように書かれています：

「„Brauhaus beym goldenen Stern“：エルンスト・フォン・アントレッター、カイェタン・アントレッター：家事管理人（執事） Hausshalter 50f、商売使用人 Handknecht 36ｆ、使用人補佐 Helfferknecht 30f、セバスティアン（下級家事使用人 Unterhausknecht 20f）、上級給仕 Ocheberkellner 24f、下級給仕 Unterkellner 20f、女性コック Köchin 18f、女性給仕 Kellnerin 10f、台所使用人 Kuchlmensch 9f」

《ディヴェルティメント　ニ長調》K.205 は、Gerhard Croll が 1978 年に充分な根拠をもって証明したように、モーツァルトがアントレッターのために作曲した作品です。大急ぎで書かれた K.205 の自筆譜には日付が書かれていません。この自筆譜は現在、ベルリンの国立プロイセン文化財に所蔵されており、11 葉 22 ページから成っています。他人の手で「ディヴェルティメント」と書かれていますが、地名［作曲地］は書かれていません。モーツァルトは自筆で「ヴァイオリン Violin、ヴィオラ（原語では Viole）、ホルン（複数）Corni etc.」とだけメモしました。このような理由から、作曲日と作曲の契機に関して、次のような数々の推測や仮説が出されました。

●Ludwig Schiedermair (1876-1957、ドイツの音楽研究者)：ウィーンの遊興施設での演奏用だろう。

●Théodore de Wysewa (1862-1917、ポーランド出身でフランスの音楽研究者)と Marie Olivier Georges du Parc Poullain, Comte de Saint-Foix (1874-1954、フランスの音楽研究者)：ウィーンのストリート・ミュージシャンのためのセレナード。

●Alfred Ortel (1889-1967、オーストリアの音楽学者)：磁力療法士フランツ・アントン・メスマー Franz Anton Mesmer (1733-1815) 邸の庭で 1773 年 8 月 18 日に演奏された。

●Carl Bär (1978年没、スイスの歯科医師、音楽研究者)：1773年7月中旬から9月25日までの、ヴォルフガングのウィーン滞在中に書かれたというのは考慮の対象にならない。なぜなら、K.168-173の弦楽四重奏など、さまざまな作品の作曲に忙しく、書けなかったはずである。

1777年9月25日、レオポルト・モーツァルトはミュンヘンにいる妻と息子などに宛てて、手紙を書いています。

「ブルーグレー色のズボンが忘れてありましたよ。他にチャンスがなさそうなので、アントレッター嬢の音楽Andretterin Musikといくつかのコントルダンスと［ヴァイオリニスト、アントニオ・］ブルネッティのために書いたアダージョとロンドのほかに、このズボンを送ります。それから、他に何かあれば、遣いに持たせて…」

レオポルトは、置き忘れられた洋服のほかに、いくつかの作品を息子に送ったのでした。手紙で言及されている「アントレッター嬢の音楽とは、モーツァルトの文献ではたいてい「アントレッター・セレナード」K.185と同一視されてきました。しかし、「アントレッター・セレナード」はフィナールムジークです。

もし、K.205がザルツブルクで成立し、また引用した手紙の内容を考慮するのなら、この作品はマリア・アンナ・エリーザベト・アントレッターMaria Anna Elisabeth Antretterと関連づけることができるでしょう。作曲の契機としてまず考えられるのは、誕生日または零名の祝日です。マリア・アンナ・アントレッターは1773年7月26日に零名を祝っています。

［K.265の成立に関する諸説は以下のとおり。］

●Carl Bärは、アントレッター家の歴史を詳細に調査した結果、ほかの家族祝い、すなわち、1774年に行なわれた夫妻の銀婚式を作曲の契機として挙げた。

●それと相反するのがWolfgang Plathの筆跡研究で、彼は「おそらく1773年7月にザルツブルクで成立した」と考えた。

●Gerhard Croll は、1978 年に ÖMZ［Öterreichische Musik Zeitschrift オーストリア音楽雑誌］の中で新たな仮説を立てた。すなわち、「ディヴェルティメント K.205 は、アントレッターの家庭に由来するもので、ヨハン・エルンスト・フォン・アントレッターの経歴と職業に関係がある」という説である。

先ほど申し上げたように、フォン・アントレッターは「ザルツブルク大司教区の最高狩猟管理長試補」に始まり、「地方長官」まで昇進しました。モーツァルトは K.205 で大変目立つように２本のホルンを置き、そのことのためにヴァイオリンを１丁に減らすことによって！―狩りの関係者であり、自然との結びつきの強い地方長官の家庭状況にあわせて演奏したのでしょうか？　私たちの耳には、２つ目のメヌエットのトリオ部に置かれた２本のホルンが「私は緑の森を歩いた」,Ich ging durch einen grasgrünen Wald' のメロディーを奏でているように聞こえます。しかもそれは３拍目に付点のついたリズムになっています。いずれにしても特徴的なのは、２本のホルンはトゥッティを強化するためのものではなく、音楽の経過の中でホルンが相当な発言力をもっていると認められることです。このディヴェルティメントは、モーツァルトがザルツブルクの[アントレッター]一家とどのように関係していたのかを再び示しています。

アントレッターは、カスパール・ヴィルヘルムゼーダーの娘**マリア・カタリーナ Maria Katharina** (*20. Feb. 1713 Sbg., † 1. Dez. 1749 ebd.) と 1748 年 1 月 23 日に最初の結婚をしています。２度目は 1749 年 10 月 21 日にザンクト・ペーターで結婚しました。相手は中産階級の商人セバスティアン・バウムガルトナー Sebastian Baumgartner とその妻マリア・アンナ Maria Anna の娘**マリア・アンナ・エリーザベト Maria Anna Elisabeth** (*28. Juni 1730 Sbg., † 12. April 1796 ebd.) です。彼女は音楽好きの女性でした。宮廷顧問官ヨアヒム・フェルディナンド・フォン・シデンホーフェン Joachim Ferdinand von Schidenhofen が書いた 1776 年 7 月 7 日付けの業務日誌に、次の記録があります。

「そのあと私たちは一緒に、フォン・アントレッター嬢のところで演奏された音楽を聴きに行きました。そこからモーツァルト家の人たちと一緒に家に帰りました。」

この音楽とは、《ディヴェルティメント　ニ長調》K.251 のことを指している可能性があります。これは文献では「ナンネル七重奏」というように載っていますが、モーツァルトの姉ナンネルのために書

かれたのではなく、アントレッター嬢のために書かれたものと思われます。ナンネルもしばしばアントレッター嬢のもとを訪問しています。

［ヨハン・エルンストの］子供たちは次のとおりです。

●**エリーザベト・マリア**・マグダレーナ・カタリーナ **Elisabeth Maria** Magdalena Katharina (*3. Okt. 1763, † 3. März 1775)：ナンネルのピアノの弟子。

●**エルンスト・ジークベルト**（ジーゲルル）ヴァレンティン **Ernst Siegbert** (Sigerl) Valentin (*13. Feb. 1766, † nach 1814)：1778 年 12 月 17 日にザルツブルクで基礎課程の入学手続きをしました。1788 年にはラウフェンで試補［事務見習い］、1789 年にはザールフェルデン、1791 年にはゴルデック、1794 年にはシュタウフェネック、1800 年にはタクセンバッハ、1803 年にはタールガウで中級書記、1810 年にはザルツブルク地方裁判所の書記、そして 1814 年にミュンヘンでそのキャリアを終えています。愛好家コンサートでチェロを弾いていました。現在、彼の子孫がザルツブルクにいます。

●ユダス・タデー・ジーモン **Judas Thaddä Simon** (*28. Okt. 1753)：聖ペーター司教座協会付属学校で大学での勉強に備えました。1772 年夏、ギムナジウムを修了し、1772～73 年にはザルツブルクのベネディクト派大学で論理学を修めました。1797～98 年には宮廷印刷業者で音楽出版社のフランツ・クサーヴァー・デュイレ Franz Xaver Duyle （1743 頃～1804）のもとでプロンプター（後見）Souffleur として『演劇新書』„Theater-Taschenbuch“ を出版しています。彼はレオポルト・モーツァルトのヴァイオリンの弟子でした。彼のために、モーツァルトは K.185 のフィナールムジークを作曲しています。

1773 年 7 月 21 日、レオポルト・モーツァルトはウィーンから次のように手紙を書いています。「いま息子のアントレッターさんに数行ほどの手紙を書こうと思います。ついでにフィナールムジークの最初の部分を送ります。」1773 年 8 月 12 日の手紙では、「フィナールムジークがうまくいったと聞いて喜んでいます。ヴォルフガングはマイスナーさんに後でお礼を申し上げるでしょう」。

最初に引用した、7 月 21 日水曜日の手紙には、フィナールムジークの冒頭部分が添えられていましたが、これは 7 月 26 日にザルツブルクに届いていたはずがありません。1773 年の宮廷カレンダーからわ

かるように、ウィーンからの郵便は毎週水曜日の朝、ザルツブルクに届きます。したがって、手紙と楽譜の一部は早くても7月28日にザルツブルクに到着したはずです。たとえ、モーツァルトの知人の誰かがウィーンからザルツブルクに手紙を携えてきても、7月26日の聖アンナの日に演奏するには間に合わなかったでしょう。なんと言っても、手紙に添えられていたのはセレナードの冒頭部分だけであったのですし。

むしろ、Herbert Kleinが主張した、次の説に従うべきでしょう。

レオポルト・モーツァルトは、このセレナードを２度「フィナールムジーク」と呼んでいます。ザルツブルクのギムナジウムの記録からは、ユダス・タデーは1772年夏にギムナジウムを卒業したと読み取れます。その後、彼が1768-69年に文法を、69-70年に統語論を、70-71年に詩学を、71-72年に修辞学を学んだ後、論理学部でさらに勉強を続けたと推測できます。1772［1773］年の夏には最初の学年を修了しています。確かに、セレナードK.185とそれに付随する行進曲K.189が論理学を終えたことへのフィナールムジークであるとみて間違いありません。この作品は、1773年8月初旬に大学の建物内で演奏されています。レオポルト・モーツァルトが書いた手紙の「数行」は、もしかしたらアントレッターの修了試験合格への祝辞であったのかもしれません。

初演はザルツブルクの宮廷バス歌手ヨーゼフ・ニコラウス・マイスナーJoseph Nikolaus Meissnerが指揮しました。《セレナード　ニ長調》（「行進曲」K.189および「セレナータ」K.185）はコンスタンツェ・モーツァルトの手を経て、レオポルト・フォン・ゾンライトナーLeopold von Sonnleithner (1797-1873)に渡り、その後、ライプツィヒの出版社アウグスト・ハインリヒ・クランツAugust Heinrich Cranz (1789-1870)の所有に、さらにその後は個人所有となっていました。1966年、行進曲K.189は取り外され、1966年5月25日にマールブルク・アン・デア・ラーンのシュタールガルトStargardt社によって競売に付されました。この作品［自筆譜］はベルリンの国立プロイセン文化財に所蔵されています。セレナータの自筆譜は、1975年2月にシュタールガルトのもとで競売に付され、カリフォルニア、ビヴァリー・ヒルズのスクリプトルム社The Scriptorumが手にしました。この会社は、その後セレナータを分割し、第6楽章のメヌエットは完全な形で国際モーツァルテウム財団に、そして他は1葉ずつバラバラになり、今や世界中に分散してしまいました。

●カイェタン・ドミニク・マリア **Kajetan** Dominik Maria (*5. Juli 1758, † 31. Dez. 1814 精神錯乱による：1769 年 12 月に、基礎課程に入学手続きをしました。法学を修めた後、宮廷議会の試補［事務見習い］となり、1784 年には宮廷官職としての重要ポスト、司厨長 Truchsess に 15fl の給与で就きました。1784 年 11 月 19 日、レオポルト・モーツァルトはザンクト・ギルゲンにいる娘に宛てて次のように書いています。「もう知っているでしょうが、２人が新しい司厨長になりました。…カイェタン・アンドレッターは宮廷議会の仕事に就いて相当長くなったので、そのことに対して特別な取り計らいがあり、正式に司厨長としての辞令を受けました。より勤勉な仕事ぶりが認められれば、もっと高い地位に就くこととなるでしょう。」

カイェタン・アントレッターは、モーツァルト一家とかなり親しく、ダーツ Bölzelschießen に参加したり、トランプに興じたり、時には演奏に携わったりしました。1778 年に創設されたチェルミン＝ロードロン Czernin-Lodron 愛好家コンサートでヴァイオリンを弾きました。弟のジーゲルルとともに、俳優としても舞台にたちました。1793 年、浪費が激しいため後見人がつきました。彼は Linzer Gasse の弟の家で、精神錯乱状態のまま死去しました。

●ジクムント・マリア・ブラージウス **Sigmund** Maria Blasius (*3. Feb. 1761, † 12. Juni 1800 Sbg.)

：モーツァルトの手紙に「コルネット・アントレッター „Cornett A.“」として登場しています。1775 年、陸海軍幼年学校の生徒として „Taxischen Curassier-Regiment“ に入校。1775 年 2 月 15 日に、レオポルト・モーツァルトはミュンヘンの妻に手紙を書いています。

「アントレッターさんは、やっと Taxisches Curassier Regiment におけるコルネットのポジションに付くことに成功しました。彼のお父さんは今日その知らせを受けたはずです。彼はすぐそのユーニフォルムを作らせて、おそらく私たちとともにザルツブルクに行くでしょう。」

モーツァルト一家はゲストとしてジクムントの家をたびたび訪れました。モーツァルトは 1778 年 7 月 31 日、パリからアントレッターによろしく伝えてくださいと言っています。アントレッターは時折ノイエッティングに駐屯しました。1780 年、彼はザルツブルクの将校団の士官候補生になり、1782 年下尉、1787 年には中尉となりました。

●7 人の子供たちが乳児期あるいは幼年期に亡くなりました。

アントレッターの屋敷は、1765 年 9 月 29 日から一家の所有になり、今日では Mozartplatz 4 にあります。豪華でメリハリの効いたロココ建築で、高貴で芸術性豊かに創り上げられたファサードがあります。中庭の正面は、小さくて優美な塔がついた美しい付属礼拝堂と玉葱型の丸屋根になっています。1793 年 1 月 28 日、競売により、宮廷書籍印刷業者のフランツ・クサーヴァー・デュイレ Franz Xaver Duyle とその妻テレージア・ヴァイプハウザー Theresia Weibhauser の所有となりました。

（訳：山本　まり子）

※ 生没年の表記は原文のままとした。
※ 人名・社名のうち、モーツァルト／アントレッター関係者の氏名および社名は、カナ表記に加え原綴を併記した。また、研究者名は原綴のみを記載した。
※ 地名のうち、一般に広く知られているものはカナ表記のみ、地番の場合は原綴のまま記載した。
※ 職名のうち、日本語訳だけでは不明瞭と判断されるものは原綴を併記した。
※ 翻訳上の補足は［　　］で示した。